

「信仰による勝利と罪による敗北」

ヨシュア記 6章～7章

～ヨシュアの生涯～

はじめに

今朝は、モーセの後を継いだヨシュアの生涯から学びましょう。

ヨシュアに率いられて、ヨルダン川を渡り、約束の地に入ったイスラエルの民に最初に立ちはだかったのは、エリコの町でした。先にヨシュアはこの町に使者を送りこの地を探らせていました。エリコに町を前にして、主は「見よ。わたしはエリコとその王、および勇士たちを、あなたの手に渡した」と言われました(2)。城壁をめぐるしたエリコは、城壁の門を堅く閉ざしていました(1)。住民はイスラエルのことを聞き、震えおののいていました(2:24)。そのエリコが神様の奇跡によって陥落したのです。

しかし、次の小さな町アイの攻略には失敗します。それは、ひとりの人の罪が原因でした。今朝は、信仰による勝利と、罪による失敗から、学びましょう。

1 信仰による勝利(6:1-27)。

エリコの町は、堅く門を閉ざし、神の民イスラエルを受け入れようとはしません。そこで、主はこの町を滅ぼすことにしました。約束の地に住みつき、そこに神の民のすみかを作るためには、その民と戦わねばならないこともありました。それは、旧約時代の神の民に限定されていたことで、今日に当てはめることはできません。

(1) エリコ攻略に採られた戦術(6:3-16)。

エリコ攻略に採られて戦術は、まことに奇妙です。武器による攻撃ではなく、祈りの行進による主の奇跡の期待なのです。戦士たちが先頭を務め、7人の祭司たちが7つの雄羊の角笛を吹き鳴らして、箱の前を歩き、町の回りを1回回り、6日間続けました。7日目には、町の回りを7回回り、祭司たちは角笛を長く吹き鳴らし、民はみな、大声でときをあげたのです。すると、堅固な城壁はくずれ落ちました。

適用：ここで神の民が学んだことは、信仰の勝利です。人間には愚かな方策に思えても、神の方策は確かです。神様のみことばを信じ、従うとき、神様のみわざは起きます。

(2) 金、銀、青銅の器、鉄の器以外は、町にあるすべてのものを聖絶(21 24)。

神は、「この町とその中にあるすべてのものは主のために聖絶せよ。遊女ラハブとその家にいる者たちだけは、みな生かしておけ。彼女は私たちが送った使をかくまってくれたからだ。あなたがたは聖絶の物には手を出すな」とお命

じになりました（17-18）。

神様がこのように厳しく聖絶をお命じになったのは、なぜでしょうか。「それは彼らが、その神々に行っていたすべての忌みきらうべきことをするようあなたを教え、あなたがたが、あなたがたの神、主に対して罪を犯すことのないためである」（申命記 20:18）

適用：神様がこれほどまでに厳しく聖絶をお命じにならなかったら、イスラエルの民は、異教の偶像の神々を拝むようになり、今日私たちが真の神様を知ること出来なかったでしょう。

私たちの生活においても、罪を犯さないようにすることが大切です。罪のもとになるものをつみ取るようにしましょう。

2 罪による敗北（7:1-26）。

神様の奇跡により、難攻不落の町エリコは陥落しました。それに味をしめた民は、次の町アイを甘く見ました。偵察隊は「2、3千人ほどで十分」と言ったのです（3）。しかし、結果は惨敗でした。

（1）罪のあるときの祈りのむなしさ（7:6-9）。

惨敗の原因が不信の罪、聖絶のものを盗んだ罪であることを知らずに、ヨシュアは長老たちといっしょに、主の箱の前で祈りました（6-9）。

（2）アカンの罪（10-26）。

主は、「立て。なぜ、あなたがたはひれ伏しているのか。イスラエルは罪ある者となった。彼らはわたしが命じたわたしの契約を破った。聖絶のものの一部を取り、盗み、欺いて、それを自分のものの中に入れることまでした。だからイスラエルの子らは的の前に立つことができない」と言われました（10-12）。

そして翌朝、ヨシュアが民にくじを引かせると、アカンに当たりました。「わが子よ。イスラエルの神、主に栄光を帰し、主に告白しなさい。あなたが何をしたのか私に告げなさい。私に隠してはいけない」（19）。すると、アカンは、外套一枚、銀 200 シェケル、50 シェケルの金の延べ棒 1 本を取り、天幕に隠したと告白しました（20-21）。

ヨシュアは使いを遣わして確認し、家族と持ち物もろとも、滅ぼしたのです。そして、主の燃える怒りはやみました。

適用：詩篇の記者はこう言っています。「もしも私の心にいだく不義があるなら、主は聞き入れてくださらない」（66:18）。

さらに、こうも言っています。「あなたに罪を犯さないため、私はあなたのことばを心にたくわえました」（119:11）。

私たちの生活においても、罪が勝利を妨げます。神様の祝福を頂けなくなるのです。自分の欲に負けて、罪を犯さない様に。

例話 ある男が車で巡礼の旅をしていました。ところがエンジンが故障して動けなくなってしまうました。幸い修道院があったので、しばらくそこに滞在することにしました。一週間後、男は歩いて巡礼を続けることにしました。すると修道院長が一頭のロバを男に差し出して言いました。「このロバに抛って巡礼を続けなさい。途中、荒野や砂漠があるから、このロバがとても重宝するよ」。男はうれしそうに言いました。「院長さま。ありがとうございます。心から感謝します。でも、私は一度もロバにのったことがありません。乗り方を教えて頂けませんか」。院長は言いました。「それは簡単だ。『神様、感謝します』と言えば前に進み、『ハレルヤ』と言えば止まる。ただそれだけのことさ」。男はろばにまたがり、「神様、感謝します」と言うと、ロバは動き出しました。

途中、炎天下で自分もロバも疲れたので、木陰で休むことにしました。そこで「ハレルヤ」と言うと、ロバは止まってくれました。それからまた長い旅が始まりました。男はロバとともに荒野を通り抜け、岩場の多い所に出ました。すると前方に崖があることに気づきました。このままだと、崖から転落してしまいます。男は暑さで頭がぼーっとして、止まれの合図のことばを思い出せなくなってしまいました。「愛。賛美。忍耐」。でもロバは止まらずに、どんどん前に進んで行きます。もう崖まで数十メートル。男は焦り、慌てた。あと1メートルという所で思い出し、「ハレルヤ」と叫び、ロバは止まりました。間一髪でした。男は手を合わせ、思わず「神様、感謝します」と言ってしまったのです。男はロバと一緒に崖から落ちてしまいました。

結論

エリコの陥落とアカンの罪による惨敗は、私たちに、「信仰による勝利と、罪による敗北」を教えています。

信仰による勝利は、私たちに大きな希望を与えます。自分たちには、到底無理と思われることも、主によって可能になるという希望です。難攻不落の町エリコも落ちたのです。

罪は、私たち自身を駄目にするだけでなく、家族をも不幸にします。それだけでなく、教会の戦いも敗北します。

今日、私たちは、神を信じ、イエス・キリストを信じるように求められています。神様のみことばがあります。それを信じ、それに従って生活しましょう。

私たちが罪を犯したとき、どうすればよいでしょう。

「もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます」（Ⅰヨハネ 1:9）

「もしだれかが罪を犯すことがあれば、私たちには、御父の前で弁護する方がいます。義なるイエス・キリストです。この方こそ私たちの罪だけでなく世全体のための一なだめの供え物です」（Ⅰヨハネ 2:1-2）

勧め

主イエスを信じなさい。そうすればあなたもあなたの家族も救われます」

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである」

祈り

父なる神様。あなたの御子イエス・キリストを感謝します。

私は、あなたに罪を犯して来ました。地獄に投げ込まれても当然な人間です。

しかし、イエス様は私の罪のために十字架にかかり、私のために死んでくださいました。

あなたは、私のすべての罪を赦してくださると言われました。感謝します。

私は、いま、イエス・キリストを私の救い主、私の神として信じ、受け入れます。

あなたは、私をあなたの子として受け入れてくださることを感謝します。

今日からあなたに従っていきます。どうぞ、弱い私を導いてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。 アーメン